

ゴルフ会員権が湖底に沈んだ話

25期 角興三

30年近く前の古い思い出話ですがお付き合い下さい。現役時代の過半は、アジア各地で過ごし最後の7年間は香港をベースに中国の市場開拓に汗を流した。赴任して1年たった頃、香港に隣接する深圳に中国で3番目のゴルフ場が新設され入会の勧誘を受けた。湖畔にあり風光明媚で将来はロッジの併設も計画されている。留守宅の妻に300万円の送金を頼み「会員権」を購入した。

週末になると日台韓欧米の駐在員らがシャトルバスで6時に出発。香港と深圳経済特区の国境、特区と区外との境界で2回もバスを降りゴルフバッグを担ぎ長蛇の列でパスポート検査を受ける。今でこそ深圳は先端技術集約型の大都市であるが当時はまだ田舎町にすぎなかった。

2年ほどたった頃、湖水の水位が急に上昇しフェアウェイの相当部分が冠水した。深圳市の人口急増に対処して水瓶を大きくした為にフェアウェイが浸食されたとの事。深圳市から買った土地が削られたに等しい。更にロッジ併設の計画がつぶれる。ロッジからの排泄水が飲料を汚染するので市役所の許可が下りない、との説明である。



駐在が終わり帰国準備に忙しいある日、新聞記事が目にとまった。《6年前の会員権販売時、売買益への税金が未納。警告しても納税がないので差し押さえ、競売で旅行会社が落札。ゴルフ会員権は失効した》こうして時価400万円のゴルフ会員券が湖底深く沈んでいき、1日4個の通関印を押したパスポート5冊だけが残った。ゴルフ場と市役所が結託した出来レースに違いない、と思った。

儲け第一、戦略性、決断力、一気呵成の行動力は、今に通じる解放後の中国大発展の推進力とも思いもするが、苦い経験ではある。